

6 NPO(す)ぎなみ環境ネットワーク

平成17年度杉並区財団等経営評価表

団体概要	名称	特定非営利活動法人 すぎなみ環境ネットワーク	代表者	熊倉 健介	所管部課	環境清掃部 清掃管理課
	基本財産	なし	設立 年月日	平成15年2月19日	電話	5347-2255
	事業目的	市民の主体的な活動を中心に、行政や事業者と協働して、環境保全分野においてリサイクルの推進をはじめとする諸事業を行い、市民の生活環境の向上を図り、もって地球環境保全の寄与を目的とする。		顧客(サービス対象) 区民一般	事業内容 1 家具、衣料品のリサイクルショップの運営 2 フリーマーケットの実施 3 集団回収事業の運営 4 不用品情報コーナーの運営 5 講座・講習会による普及啓発 6 ディッシュ・リユース・システムの運営 7 環境情報館管理運営 8 あんさんぶる荻窪貸室業務	

経営分析 (定性評価)	団体による自己評価結果				定性評価レーダーチャート 			
		14年度評価	15年度評価	16年度				
				評価			得点	
	計画性	B	B	B			75	
	目的適合性	B	A	B			63	
	健全性	B	B	A			90	
	効率性	B	A	A			100	
	経済性	B	B	A			100	
総合	B	B	A	428				

経営分析 (定量評価)	財務	主要指標	単位	平成14年度	平成15年度	平成16年度	特記事項
		総収入	千円	76,940	92,971	73,420	
		総支出	千円	68,131	74,024	69,237	
		資産	千円	22,271	21,098	26,356	
		補助金収入依存度	%	71.6	58.0	7.5	
		受益者負担	千円	0	0	0	
		事業費比率	%	59.8	63.5	73.0	
		管理費比率	%	40.2	36.5	27.0	
		職員一人当たり事業収入	千円	1,731	1,914	2,322	
		経常収支	千円	8,808	18,946	4,183	
		経常支出人件費比率	%	27.4	24.9	65.8	
	損益分岐点	千円	63,538	64,329	52,634		
	組織	総職員数	人	23	23	43	
	常勤役員比率	%	12.5	12.5	3.4		

事業分析	活動指標	指標名	算式	単位	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		家具引取件数	不用となった家具を引き取った件数	件	1,787	1,922	2,196
		集団回収団体数	集団回収を行っている団体数	団体	211	217	221
	成果指標	衣料品販売所来店者	衣料品販売所来店者数	人	11,250	14,420	15,336
		集団回収回収量	団体全体の回収量	トン	4,160	4,436	4,637
	衣料品販売総額	衣料品販売総額	千円	4,679	5,528	9,871	

衣料品販売額等実績は年々伸びている。家具については、売上金額が落ちているが、販売件数は伸びている。自主財源増が図れなかったが、リサイクルの推進とごみ減量といった公益目的のため、やむをえない。集団回収については、団体数は新規加入の一方、解散もあるので、伸びは鈍化しているが、回収量は伸びている。フリーマーケットについては、ニーズが高いので、ひろば高井戸以外の会場での開催を行い、実績を伸ばした。環境情報館・あんさんぶる荻窪の貸室の管理運営等を行った。

【財団等団体経営評価(1次評価)】

経営分析・定性評価	経営分析・定量評価	事業分析
<p>中長期計画や年次計画は、策定を試みたが、あんさんぶる荻窪受託等、区の計画・施策との連動があるので、法人独自での計画の策定は困難であり、作成できなかった。</p> <p>今後は、未確定の分野以外について作成したい。その他の分野については、おおむね目的達成されてはいるが、今後とも努力して参りたい。</p>	<p>16年度は、黒字であり健全な財政状況であったが、今後の予断は許されないもので、本年度も事業収益増、経費節減に努めてまいりたい。</p> <p>区からの委託事業の比率が高いが、法人の公益性・区との関連からやむをえないと考える。</p>	<p>衣料品販売・家具販売の販売件数も増え、集団回収の回収量も順調に伸びている。</p> <p>講座講習会等の実績は、あんさんぶる荻窪の施設管理にあわせ実施したので、ひろば高井戸の実績も含めると大幅に増えている。参加者数に差があるので、今後、PR方法、普及啓発の必要性等、総合的に検討したい。</p>

【財団等団体経営評価】
 衣料品販売の金額は伸びているが、家具販売については、販売件数が増えたが、金額は低下している。これは、ごみ減量・リサイクル普及のため、単価をダウンさせたためであり、やむをえないと考える。しかし、団体の自主財源強化の観点からは、今後何らかの対応が必要である。

環境情報館を含んだあんさんぶる荻窪の受託については、法人の事業運営に資する部分があるが、収益については、非常に厳しい条件下にあるので、運営に当たっては、一層の努力をしてまいりたい。

【所管部課経営評価(2次評価)】

経営分析・定性評価	経営分析・定量評価
<p>中長期計画の策定は、課題であるが策定されていない。区からの委託事業等の影響は受けても、団体としての方向性、目的を達成するため方針を持っていくべきである。</p> <p>区として、示すべきものがあるのであれば、きちんと示していきたい。</p>	<p>16年度の財政状況は黒字であるが、自主事業、収益事業については、団体のミッション達成のために今後も努力してほしい。</p> <p>補助金対象事業を精査し、委託事業とすることが適切なものは委託事業とした。また、集団回収団体への報奨金も、すぎなみ環境ネットワークへ補助金として支出していたのを改めた。すぎなみ環境ネットワークから集団回収団体へ支出していたのを区から団体へ直接支出することとしたことで、補助金を大幅に減額した。</p> <p>区の委託事業については、仕事量を把握し、必要十分な経費を用意したいが、一方で経費節減も行っていきたい。</p>

事業分析・現状の分析・評価	事業分析・目標設定の考え方	事業分析・事業の推移
<p>委託事業である集団回収、普及啓発講座の実施等は、委託内容のとおり順調である。</p> <p>自主事業の家具販売、衣料品販売の件数は増加している。</p>	<p>集団回収団体数・回収量、講座・講習会参加者数、あんさんぶる荻窪の貸室管理は、区からの委託事業である。このため、目標設定は、団体の意向だけで決められない。</p> <p>自主事業の実績についても順調に伸びており、目標設定も増加・拡大の方向が適切であると考える。</p>	<p>集団回収は、16年度回収量が実施計画における16年度末現況を超え、今後の目標をクリアしていくことも可能と思われる。</p> <p>自主事業の家具販売、衣料品販売の件数も増加しており、事業実績は、安定して伸びている。</p>

【所管部課経営評価】
 区委託事業と自主事業について、ともに順調な伸びである。家具の修理販売、衣料品等の販売、フリーマーケットなど、区民ニーズも高いので、今後も事業の周知や事業拡大に努めることで、一定程度自立したNPOを目指していくのが、次の段階である。

補助金収入依存度は低くなったが、施設の無償貸与等見えない補助は、変わらずに大きい。今後も補助金収入依存度を低くするよう努力が必要である。

【総合経営評価(3次評価)】

- 依然として中長期計画が策定されていない。早急に団体独自の目標達成の指針を持つべきである。
- 補助金事業の委託化により補助金収入依存度は減少したが、一方で区からの委託事業依存度が82.7%となり、他団体に比べ突出している。また、区からの受託事業のあんさんぶる荻窪の管理運営のため職員数が大きく増えている。受託初年度は、やむを得ないにしても、今後事業量の適切な算定や事務の効率化により、職員数の見直しを図っていくことも必要である。
- リサイクルは、地球環境を守る取組みへの入り口といえる。団体のフリーマーケットの開催や衣服のリユースなど、継続的な運動がリサイクルの大きな流れを生む源泉である。今後は、リサイクル活動の推進とともに、環境問題全体にも活動を広げ、環境団体の中心的な存在として、NPO団体と区との協働のモデルケースとなるよう、さらなる努力を期待する。

平成17年度杉並区財団等経営評価による改善計画

団体名称	特定非営利活動法人 すぎなみ環境ネットワーク	代表者	熊倉 健介	電話	5347-2255
最 主 近 な 五 取 年 り 間 組 み	<p>当団体は、平成6年度に「杉並リサイクル協会」として発足し、任意団体として、リサイクル事業を中心に活動してきた。平成15年2月に「特定非営利活動法人すぎなみ環境ネットワーク」として法人格を取得し、新たにリサイクルのみでなく、広く環境全般に関する事業に取り組むこととした。</p> <p>最近の取り組みとしては、 集団回収事業の運営 家具衣料品販売の運営(14年度以前は、委託販売) 不用品情報コーナーの運営(インターネットの活用) フリーマーケットの運営 リサイクルカレッジの実施 エコスクールの実施 各種講座・講習会の実施 リサイクルアイデア作品展(現かんきょうアイデア展) ディッシュ・リユース・システム等多角的に実施してきた。</p> <p>16年4月「あんさんぶる荻窪」開設に伴い、環境情報館を中心に、新しい普及啓発等の各種事業展開をするとともに、会議室等の管理運営も行うこととなった。</p>				
前 年 度 の 成 果 ・ 反 省 の 取 り 組 み	<p>16年4月「あんさんぶる荻窪」は、他の区民施設と利用条件が異なり、利用者に混乱を招くことが多く、大変であったが、法人としても全力を挙げ対応した結果、無事、管理運営を行えた。</p> <p>環境情報館の管理運営等については、荻窪地区の普及啓発事業の拠点として種々の事業を行い一定の成果をあげた。また、環境団体連絡会の設置を通じ、環境団体のネットワークを形成することができた。</p> <p>家具衣料の販売・不用品情報コーナーについては、リサイクルの普及・ごみ減量を主目的とするため、販売金額はともかく、件数の上から見ると引き続き成果が上がっている。フリーマーケットについても、ひろば高井戸のみでなく、荻窪地域区民センター・あんさんぶる荻窪を新たな会場として開催し、リユースの普及に努めた。前年度新規事業のディッシュ・リユース・システムも実績が上がってきた。</p> <p>環境情報館を会場にする各種講座講習会を新設したため、前年度の倍以上の講座等を行い参加者も大幅にふえたが、応募者数に差が多かった。PRの方法のみならず、区民の関心、普及啓発の必要性等を総合的に検討する必要がある。</p>				
今 年 度 の 組 み ・ 目 標 の 取 り	<p>家具衣料の販売についても、収益の増加を図る努力をする一方、本来目的のリサイクルの推進とごみ減量に資するよう、一層推進して行きたい。</p> <p>あんさんぶる荻窪の会議室貸し出し管理運営については、適正な施設利用を目指し、区民サービス向上に努めてまいりたい。</p>				
総 合 方 針	<p>既存事業の一層の充実を図るとともに、法人の自主性を強化するため、自主財源の獲得に力を入れ、努力してまいりたい。</p>	添 付 リ 資 料			

平成17年度杉並区財団等運営評価 - 事業分析 (事業概要)

団体名称	特定非営利活動法人 すぎなみ環境ネットワーク	代表者	熊倉 健介	所管部課係名	環境清掃部 清掃管理課 リサイクル推進係
基本財産	—	設立年月日	平成15年2月19日	電話	5347-2255
顧客	区民一般				
事業目的	市民の主体的な活動を中心に行政や事業者と協働して、環境保全分野においてリサイクルの推進をはじめとする諸事業を行うことにより、市民の生活環境の向上をはかり、もって地球環境の保全に寄与する。			事業内容	<p>家具販売(手数料含み) 不用になった家具を引取り、販売し、リユースを推進する。</p> <p>衣料品販売 不用になった衣類を引き取り、販売し、リユースを推進する。</p> <p>フリーマーケットの運営 出展者を公募し、不用品のリユースを促進する。</p> <p>集団回収の推進 古紙、ビン、缶等の回収団体に報奨金を支給し、回収を促進する。</p> <p>不用品情報コーナー 不用品を処分したい人とほしい人とをインターネットで仲介斡旋し、リユースを促進する。</p> <p>講座・講習会 洋服のリホーム、廃油からの石鹸作り、紙漉き、堆肥作り等の講座・講習会を行う。環境情報館の開設により、自然・環境保護の講座にも力を入れ、意識を啓発する。</p> <p>エコスクール 区立小中学校の総合的な学習の時間を活用し、石鹸作り、紙漉き、堆肥作り等環境・リサイクルの指導を行い、子供の意識を啓発する。</p> <p>ディッシュリユースの実施 イベント模擬店でごみを出さぬよう、食器を洗って戻し、ごみ減量のみならず使い捨ての生活様式を改める契機を提供するもので、用具貸出と指導を行う。</p> <p>環境情報館・あんさんぶる荻窪の管理運営 館内で各事業を行い、環境団体との連携を行い、併せてあんさんぶる荻窪全体の貸室管理も行う。</p>
事業規模	<p>平成16年度実績</p> <p>1 家具販売(手数料含み) 3140件 12,693千円</p> <p>2 衣料品販売 9,870千円</p> <p>3 フリーマーケットの運営 439区画 446千円</p> <p>4 集団回収の推進 221団体 4,637トン 報奨金27,822千円</p> <p>5 不用品情報コーナー 契約成立件数 218件</p> <p>6 講座・講習会(ひろば高井戸) 実施回数168講座 参加者数1,620人</p> <p>7 講座・講習会(環境情報館) 実施回数108講座 参加者数1,365人</p> <p>8 エコスクール 区立小中学校 23校 53回 4,429人</p> <p>9 バス見学会、出張講座等 54回 747人</p> <p>10 ディッシュリユースの実施 7行事 72名派遣</p> <p>11 環境情報館・あんさんぶる荻窪の管理運営 延べ4208部屋貸出</p>			区への要望	<p>衣料品リユース事業は、ニーズの高い事業であり、リユースを促進する過程で、自主財源の獲得もできる優れた事業である。現在の店舗の所在が高井戸なので、荻窪地区と方南地区にも販売店がほしいという要望が強い。</p> <p>区の空き施設の借用等により、新店舗の設置につき、ご指導いただきたい。</p> <p>環境情報館の管理運営については、施設内での事業展開のメリットがあるが、貸室業務については、当初想定していた以上の業務があり、これに対する人件費の捻出に苦慮しているところである。今後現状をご覧の上、ご配慮いただきたい。</p> <p>あんさんぶる荻窪活性化対策についても、各種イベントの実施等に相当の経費を必要とするので、ご配慮いただきたい。</p>
組織構成	理事14人、監事2人、委員19人、会員93人 事務局 本部4人、リサイクルひろば高井戸3人、計7人				

平成17年度杉並区財団等運営評価 - 事業分析 (事業評価指標)

	指標名	式・具体的内容	単位	14年度実績	15年度実績	16年度実績	目標	
							目標値	目標年度
活動指標	家具引取件数	区民の不用となった家具を引き取った数 増 目標値5%	件	1,787	1,922	2,196	2,800	18
	集団回収団体数	集団回収を行っている団体数 目標値 区実施計画数 5%増 目標値	団体数	211	217	221	280	18
	衣料品販売所来店者数	衣料品販売所に来店した者の数 増 目標値5%	人	11,250	14,420	15,336	16,000	18
	講座・講習会	講座・講習会の参加者 増 目標値5%	人	1,670	1,459	2,985	3,000	18
	貸室実績	環境情報館・あんさんぶる荻窪の貸室管理 増 目標値5%	延べ部屋数	-	-	4,208	4,400	18
成果指標	家具販売件数	家具販売件数 増 目標値5%	件	2,365	2,865	3,140	3,300	18
	集団回収回収量	自治会・集合住宅等の団体が回収した量 5%増 目標値	トン	4,160	4,436	4,637	4,870	18
	貸室利用率	環境情報館・あんさんぶる荻窪の貸室の利用率 増 目標値20%	%	-	-	32	38	18
現状の分析・評価				目標設定の考え方				
<p>家具の販売件数は年々伸びており、ニーズの高い事業と言える。収益事業としても、今後一層力を入れていく。</p> <p>集団回収は、低コストで良質な資源が回収できるので、事業の拡大に努める。</p> <p>衣料品販売は、売上額が年々伸び来客の要望もあり、多店舗化を図りたい。</p> <p>講座・講習会は、内容により定員が異なり、参加者数は、年毎に変動するが、従来の講座に加え、学校支援事業を通し、子どもに対する啓発を進めていく。</p> <p>家具の引き取り及び販売件数も、年々伸びており、今後も来店者を増やすようPRに力を入れていく。</p> <p>集団回収回収量増加について、リユース事業委員会を中心に進めていく。</p> <p>環境情報館・あんさんぶる荻窪の管理運営については、適正な貸室を行い、区民サービス向上に努めた。</p>				<p>家具の販売件数は、17年度目標値を16年度に達したので、16年度実績の5%増とした。</p> <p>集団回収は、区実施計画数値。</p> <p>衣料品販売来店者数は、16年度に大幅に増えたので、16年度実績の5%増とした。</p> <p>講座・講習会は、内容により定員が異なり、参加者数は、年毎に変動するし、目標値が設定しにくい、16年度実績の5%増とした。</p> <p>家具の引き取り及び販売件数も、年々伸びており、16年度実績の5%増とした。</p> <p>集団回収回収量については、区実施計画数値。</p> <p>環境情報館・あんさんぶる荻窪の貸室の利用率については、現在は率が低いので、高めの20%増とした。</p>				

平成17年度杉並区財団等運営評価 - 事業分析 (事業の推移)

	項目	算式・説明	単位	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	備考	
財務状況	総収入(経常収入)		千円	63,722	64,949	76,940	92,971	73,420		
	総収入のうち	補助金収入		千円	49,278	46,779	55,052	53,907	5,523	
		事業収入	事業収入 + 掛金収入	千円	11,555	12,053	13,854	15,312	67,345	
		内 区からの受託事業費		千円	0	0	0	2,099	41,809	
		基本財産運用収入額		千円	—	—	—	—	—	
		受益者負担		千円	0	0	0	0	0	
	受益者負担比率	受益者負担 ÷ 総事業費	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	総支出(経常支出)		千円	61,415	62,375	68,131	74,024	69,237		
	総支出のうち	全事業の事業費	事業に係る人件費を含む	千円	41,721	40,725	40,756	46,974	50,574	
		内 区からの受託事業の事業費	区からの受託事業に係る人件費を含む	千円	0	0	0	2,099	41,809	
		管理費	管理に係る人件費を含む	千円	19,694	21,650	27,375	27,050	18,663	
		総人件費		千円	18,208	18,771	18,696	18,468	45,591	
		内 区からの受託事業に係る人件費		千円	0	0	0	0	33,781	
	資産		千円	18,514	15,810	22,271	21,098	26,356		
	負債		千円	12,590	7,344	4,858	2,093	3,169		
	正味財産		千円	5,924	8,466	17,413	19,004	23,187		
基本財産額		千円	—	—	—	—	—			
組織	総職員数	役員、派遣職員、固有職員の総数	人	21	22	23	23	43	常勤役員及び常勤職員は、全員月16日勤務であり、勤務条件は、区の嘱託員を参考にしている。	
	内訳	常勤役員数		人	1	1	1	1		1
		非常勤役員数		人	14	14	15	15		14
		派遣職員数	区からの派遣職員	人	0	0	0	0		0
		常勤固有職員数		人	5	5	5	5		6
		非常勤固有職員数	パートタイム、アルバイトを含む	人	1	2	2	2		22
サービス	サービス利用年間延べ人数		人	132,317	113,194	127,750	135,137	139,318	あんさんぶる荻窪の貸室利用者は算入せず	
	職員一人当たりサービス利用人数	サービス利用年間延べ人数 ÷ 職員数	人	6,301	5,145	5,545	5,877	3,240		
単り位コスト	集団回収の事業費	集団回収の事業費 / 利用世帯数	円	350	449	449	498	1,356	16年から集団回収報奨金を区が直接行うこととなった。	
	不用品情報コーナーの事業費	不用品情報コーナーの事業費 / 紹介者数	円	9	11	6	7	655		
	講座・講習会の事業費	講座・講習会の事務局長費 / 参加者数	円	313	721	200	358	463		

千円単位のもの、千円未満を切り捨て、円単位のもの、1円未満を切り捨てる。 %については、小数点以下第2位を四捨五入する。

平成17年度財団等経営評価 運営評価表(経営分析定性指標)

○:十分できている、△:おおむねできている、×:できていない

分野	指 標	評価	分野の点数(100点)
計 画 性	1 経営戦略及び経営目標達成の進捗状況管理の手段として、中長期経営計画が策定されているか	×	75
	2 年次事業計画書・収支予算書が、中長期経営計画に基づく短期的行動指針として作成されているか		
	3 中長期経営計画や年次事業計画の策定に当たって区の行政サービスに関する計画との整合性が確保されているか		
	4 年次計画と年次実績との乖離原因の分析と結果が次年度以降の計画へ反映されているか		
	評価の根拠 中長期経営計画策定はできていないが、個別的には、事業評価指数の項のように、18年度の目標を設定はしている		
目 的 適 合 性	5 事業内容と団体の設立目的が合致しているか		目的適合性
	6 事業目標(定量的数値)の設定方法が妥当か		100
	7 団体が提供するサービス等に対する顧客の満足度を調査・分析しているか		
	8 新規事業の企画段階または新しい商品やサービスの提供を開始する際に顧客のニーズを調査・分析しているか		
	評価の根拠 事業内容は、団体の設立目的に合致している。事業目標の設定については、ニーズに基づき改訂しているので妥当である。顧客の満足度の調査分析については、各種アンケートなどにより分析している。新規事業等開始については、事業委員を含め意見を集約し、区及び関係団体とも調整し実施している。		
健 全 性	9 管理者及び職員の能力育成体制が整備されているか		
	10 意思決定及び業務の妥当性を確保するための管理体制ができているか		90
	11 財産管理や会計処理が適正に行われているか。また、監査の体制が整備されているか		
	12 区からの財政的支援(補助金)に依存しない経営努力を行っているか		
	13 個人情報の管理と情報公開は適正に行われているか		
評価の根拠 能力育成については、OJTを通じ行い、また、外部講師を招聘し実施している。管理体制等について、土日出勤の16日勤務のため、意思疎通に齟齬がないよう配慮している。財産管理等は、税理士・監事による監査体制が整備されている。区からの財政面での支援については、収益事業を展開し自主財源確保の努力はしている。個人情報管理等は、規定を制定し、適正に行われている。			

平成17年度財団等経営評価 運営評価表(経営分析定性指標)

分野	指 標	評価	分野の点数(100点)
効 率 性	14	予算節約度の原因分析結果が業績改善へ結びつけられているか	100
	15	人件費を削減するための工夫が凝らされているか	
	16	資産運用効率を改善するための工夫が凝らされているか	
	17	事務処理の効率を改善するための工夫が凝らされているか	
	18	業務の効率化、コストダウンのためにアウトソーシング(外部委託)を活用しているか	
	評価の根拠	予算節約に努めても即業績改善へとはならないが、人件費についてはフルタイム職員は雇わず、16日勤務の職員のみで、他は補助職員(パート)を充てており、また、ボランティアの協力も得ているので、削減効果は大きい。資産というほどのものはない。事務処理はOA化を進めている。外部委託は、清掃警備のみでなく、商品の配送整備、ホームページ作成、広報・普及啓発等の企画実施をボランティア的な事業委員にお願いしている。	
経 済 性	19	同種の事業形態、同規模の他団体を業績向上の比較対象として設定し、業績改善の努力を行っているか	100
	20	サービスコスト低減のための努力(施策)を行っているか	
	21	物品の調達コスト低減のための努力(施策)を行っているか	
	22	交渉や入札等により外部委託コスト(業務委託費)低減のための努力(施策)を行っているか	
	23	事業収入を増加させるための努力(施策)を行っているか	
	評価の根拠	同種同規模の団体がなく単純比較できないが、全職員の非常勤化等の努力をしている。サービスコスト物品購入について日常的に努力しているが、具体的施策はない。外部委託については、清掃・警備については、入札・交渉により前年度より契約額は低減された。事業収入増については、ひろば高井戸における各種販売について日常的な努力をし、実績向上をしてきた。	

平成17年度財団等経営評価 運営評価表(経営分析定量指標)

分野	指標	算定式	単位	14年度	15年度	16年度	特記事項	参考
計 画 性	1 事業費の対計画比率	全事業の事業費(決算額)÷当初予算事業費額×100	%	94.3	92.7	87.4		
	2 経常収支	経常収入(総収入)－経常支出(総支出)	千円	8,808	18,946	4,183		通常黒字が望ましい
	3 経常収支比率	経常収入÷経常支出×100	%	9.0	125.6	106.0		通常100%以上が望ましい
	4 事業収入合計の伸長率	当該年度の事業収入÷前年度の事業収入×100	%	114.9	110.5	439.8		通常増加が望ましい
	5 経常収入の伸長率	当該年度の経常収入÷前年度の経常収入×100	%	118.5	120.8	78.9		通常増加が望ましい
	6 事業費比率	全事業の事業費÷経常支出×100	%	59.8	63.5	73.0	16年度事業費には、事業担当の人件費を含む。	通常増加が望ましい
	7 管理費比率	管理費÷経常支出×100	%	40.2	36.5	27.0		通常減少が望ましい
自 立 性	8 補助金収入依存度	補助金収入÷総収入合計×100	%	71.6	58.0	7.5		通常減少が望ましい
	9 収益事業比率	収益事業の事業費÷全事業の事業費×100	%	30.9	58.0	35.4		
	10 区委託事業依存度	区委託事業費÷全事業の事業費×100 (補助金は含まず)	%	0.0	9.1	82.7		
	11 正味財産構成比率	正味財産÷(負債+正味財産)×100	%	78.2	90.1	88.0		通常増加が望ましい
健 全 性	12 基本財産運用収入率	基本財産運用収入額÷基本財産額×100	%	-	-	-		通常増加が望ましい
	13 経常支出人件費比率	総人件費÷経常支出×100	%	27.4	24.9	65.8	16年度は、あんさんぶる 荻窪受託による増員	通常減少が望ましい
	14 常勤役員比率	常勤役員数÷総職員数(非常勤役員を除く)×100	%	12.5	12.5	3.4	常勤役員は月16日勤務	通常減少が望ましい
	15 常勤役員人件費比率	常勤役員人件費÷総人件費×100	%	17.8	17.8	7.9		通常減少が望ましい
効 率 性	16 管理費比率の削減率	(1-当該年度の管理費比率÷前年度の管理費比率)×100	%	15.9	9.2	26.0		通常増加が望ましい
	17 資産回転率(回)	総収入÷資産	回	3.5	4.4	2.8		通常1回以上が望ましい
	18 職員1人あたり事業収入	事業収入÷総職員数(非常勤役員を除く)	千円	1,731	1,914	2,322	非常勤役員を除く	通常増加が望ましい
経 済 性	19 資産剰余率	剰余金(当期正味財産増加額)÷資産×100	%	40.2	89.8	15.9		通常増加が望ましい
	20 損益分岐点	固定費÷{1-(変動費÷総収入)}	千円	63,538	64,329	52,634		
	21 損益分岐点比率	損益分岐点÷総収入×100	%	82.6	69.2	71.7		通常90%未満が望ましい

金額は、千円未満を切り捨てる。%及び回については、小数点以下第2位を四捨五入する。

平成17年度杉並区財団等経営評価 問題点検討表(2次評価)

主管部 課係名	環境清掃部清掃管理課 リサイクル推進係	電話番号 3733	団体名	特定非営利活動法人 すぎなみ環境ネットワーク
経営分析、課題と問題点				
定性評価	計画性	今まで指摘がありながら、団体としての中長期計画が策定されてきていない。団体設立後、区施設が新たに開設され、その管理を受託し、事業規模を区にあわせて拡大してきた。今後は、特定非営利活動法人としてのミッションを達成するための中長期計画の早期策定が必要である。		
	目的適合性	委託事業も自主事業も団体の設立目的とほぼ合致している。リサイクル分野の区民ニーズを把握し行っているため、家具の修理販売、衣料品の販売、フリーマーケットの実績が上がっている。ほかの環境全般分野での、事業目標をより明確にし、ネットワークと活動範囲を広げていく必要がある。		
	健全性	区の五つ星運動の実践をしていくため、管理者、職員の能力育成の制度は、整備されている。会計処理、財産管理には、税理士、監事により適切な支出や財産管理が行われている。収益事業に力を入れ、自主財源確保に努めているが、区からの財政的支援は、必要不可欠な状況である。個人情報取り扱いについては、内部規定があり厳格に行われている。		
	効率性	人件費節減の工夫はされているが、単純労務ではなく、業績向上に結びつくように人を育てていく必要もある。事務処理の効率化は、OA機器により進めるために、職員のOA機器活用能力が課題である。		
	経済性	同種同規模の団体がないが、業績改善に向けた努力は、全職員で取り組んでいることが伺える。		
定量評価	計画性	経常収入の伸長率以外は、望ましい状況である。経常収入の伸長率が、減少になっている理由は、補助金の一部であった集団回収団体への報奨金を区に留保し、区から支出したためと思われる。直接、すぎなみ環境ネットワークの運営に影響するものではないと考える。		
	自立性	補助金収入依存度が、著しく減少している。区と団体で協議し、委託事業として扱う方が適切なものは、委託事業としたためである。一方、区委託事業依存度が、大幅に上昇している。		
	健全性	経常支出人件費比率が増加している。あんさんぶる荻窪の貸室業務を新規事業として受託したため、職員を増員した結果である。		
	効率性	管理費比率の削減率も増加しており、職員一人あたり事業収入も増加している。効率的に事業運営ができていると考える。		
	経済性	損益分岐点に関する考え方を見直したとのことで、単純に比較することはできない。		
特記事項				

事業分析、課題と問題点

現 状 ・ 評 価	活動指標	活動指標の家具引取件数、集団回収団体数、衣料品販売所来店者数ともに増加している。区民ニーズのある事業内容を行っていることを示している。
	成果指標	集団回収量、衣料品販売総額も活動指標同様に増加している。 委託業務である集団回収は、参加する団体数が増え、それにより回収する資源の量が増えることを目標とした成果指標で目標を達成できた。 衣料品の販売は、リユースされた点数で示されていない。しかし、金額の増加よりも点数が増加している衣料品の販売は、ニーズも高いため、ごみ減量、リユースに直結している。
目 の 考 え 定 方	活動指標	集団回収事業、普及啓発講座、貸室業務は、区からの委託業務である。目標設定にあたっては、十分すぎなみ環境ネットワークと話し合ったうえで、増加の方向が望ましい活動指標であるので、今後も一層の努力を期待したい。
	成果指標	家具の修理販売件数は、すぎなみ環境ネットワークの努力によるもので、自主財源の確保にもつながり増加の目標設定となる成果指標である。 集団回収実施団体の増加、および集団回収量の増加という成果に対する、すぎなみ環境ネットワークの寄与が明確になるようにしていく必要がある。
事 業 の 推 移	財務状況	補助金収入依存度が低くなったことは評価できる。一方、収益事業比率が大きく低下しているため、今後は上昇するように努力してほしい。 経常支出人件費比率が高くなったのは、あんさんぶる荻窪の貸室業務を受託したために必要なことである。 今後の状況を見守りたい。
	組織	常勤役員比率、常勤役員人件費比率ともに減少。 区との関連が強い団体であるが、区退職者を活かし、団体の自立性を高めるために計画的な事業運営ができるような組織づくりを進める必要がある。
	サービス	事業実績の増加傾向から、区民ニーズのあるサービスが提供できていることを示しており、今後も利用者満足向上に努めていくことを望む。
	コスト	職員1人あたり事業収入も増加、管理費比率の削減率増加など、職員一人一人がコスト削減に向けた努力をしている。
所 管 部 課 経 営 評 価 総 合 コ メ ン ト (分析、課題と問題点)	補助金に依存した経営から、収益事業や委託事業による収入に転換できた年度であったと考える。 今後は、特定非営利活動団体としての中長期計画を策定し、計画に基づいた事業を中心に展開すべきである。 引き続き、全職員による努力により、広く環境問題に関わる団体としての発展を期待する。	